

市議団座談 2012

福田明・鈴木やす子両議員、新春に語る



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

本紙は、北茨城の今を伝える市議団ニュースとして毎週発行しています。おかげさまで昨年も欠かさず発行することができました。バックナンバーは、すべてインターネットでもお読みいただけます。ひきつづき本年もよろしくお願いたします。

新年の恒例で、日本共産党の両市議に語ってもらいました。(司会は編集部)

東日本大震災

〔司会〕はじめに、昨年をふりかえってのお話からうかがいます。

〔福田明市議〕何といっても、大震災には驚きまし



た。大津、平潟、旧磯原は津波で大きな被害を被りました。私の友人の家も流されましたが、一瞬にして全てが消失する光景を見て、これまでの人生観が変わりました。人間にとって一番大切なものは何なのか。さりげない日常であったり、家族や友人ではないか…考えさせられました。また、震災の復興支援に多くの方々が来られましたが、あらためて人と人との絆の大切さを実感した一年でしたね。

〔鈴木やす子市議〕

昨年9月に北茨城市議会では災害時における体制の整備をはかりました。それらもあって、震災時には議会全体が市行政と一体となって対応にたることができました。昨年9月におこなわれた県との合同防災訓練も大きく活きました。いっぽう原発事故

は、日本共産党や市民団体が問題点を指摘していたにもかかわらず起きてしまった人災です。放射能による被害は深刻で長期にわたるもので、まさに取り返しのつかない事態です。

復興と被災者支援

〔司会〕被災者支援や今後の震災復興についてうかがいます。

〔鈴木〕地震・津波による被害は甚大でしたが、首長の判断も早く、復旧・復興に必要な手順がとられたと思います。支援物資の配給、水や電気の再開、ガレキ撤去、住居の手当、雇用の確保など、市民と一緒に行政も精一杯がんばっています。それでもまだまだ支援が必要です。

〔福田〕

冬になって仮設住宅を訪ねたら入居者が寒さにふるえていました。「エアコンを早急に設置すべき」と議会で取り上げて設置を約束させました。被災者の多くが入居している雇用促進住宅や仮設住宅の供用期間は法律では2年間とされていますが、これを延長するように市長に求めてきました。また、市の復興計画が

来年2月初旬には答申されますが、被災者の意見を十分に反映したものでなければなりません。再起への勇気がわくような計画にしたいと思えます。

〔鈴木〕

放射能汚染は、水産・観光・農林業に深刻な痛手をもたらしています。きめ細かく放射線量を測定し、きちんと公表して、ひとまず生活空間から除去していくことが当面の対策です。誰も経験したことのない事態であり、不安を少しでも減らす努力を重ねていくしかありません。

市民に寄り添って

〔司会〕

今年の抱負を。〔福田〕震災からの復興や原発事故の収束は、息の長いたたかいです。被災者にとって「忘れ去られる」ことが一番つらいことだと思います。つねに被災者や市民に寄り添ってがんばりたいですね。寅さんの言葉に「労働者諸君！ハンマー



「大津町ご近所声かけ隊」が中心となって、地域の皆さんがボランティアで花壇とベンチを整備。

を捨てて、ペンを持って」と笑わせる名言があります。世の名作でも読みながら、悠然と生きたいですね。かなわぬ夢ですが。

〔鈴木〕

津波で海沿いの町並みが変わってしまいました。防災面も重視しながら、港町をどう復活させるのか、コミュニティの再生とともに考えることだと思います。そして何よりも脱原発。人間の手に負えないものをまき散らす原発とは共存しえないことがはっきりしたわけです。汚されてしまった自然環境だけれど、このふるさとで自然エネルギーの街づくりをすすめたたいと思います。